

# 家族と地域における子育てに関する意識調査 報告書

〔概要版〕

平成 26 年 3 月

内閣府政府統括官(共生社会政策担当)



# 「家族と地域における子育てに関する意識調査」結果の概要

## I 調査の概要

### 1 調査目的

我が国は、社会経済の根幹を揺るがしかねない「少子化危機」ともいうべき状況に直面している。近年、合計特殊出生率は1.41と微増ではあるが、先進国の中でも低い水準であり、このまま上昇傾向が続くかどうか不明である。

多くの若者が、将来家庭を持つことを望み、希望する子どもの数は平均2人以上となっているものの、晩婚化が進むとともに生涯未婚率が上昇しており、国民の希望を叶えることが出来ていないのが現状である。

こうした国民の希望を叶える観点から、家族形成について当事者である若者のみならず、国民の意識を調査し、その阻害要因や要望を分析する。

また、子育てをするにあたっては、社会全体で子育て家庭を応援すべく、子どもを生き育てやすい環境づくりを、地域が一体となって進めていく必要がある。地域においては、子育て支援活動の重要性や参加意識などを調査把握することも重要である。

本調査研究では、調査結果を広く公表することにより、生命を次代に伝え育ていく家族の大切さや、子育て世代を地域全体で支えていくことが重要であることの国民意識醸成をはかるとともに、今後の施策立案に寄与することを目的とする。

### 2 調査項目

- (1) 結婚・家族形成についての意識
- (2) 家庭における出産や子育てについての意識
- (3) 地域での子育て支援環境づくりについての意識

### 3 調査対象

- (1) 母集団 全国20歳～79歳の男女
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出法 層化二段無作為抽出法

### 4 調査時期

平成25年10月4日(金)～11月4日(月)

### 5 調査方法

回答の選択肢を列記した「回答票」(カード)を用い、調査員による個別面接聴取を行った。

本調査は、企画分析委員会(委員長:中京大学現代社会学部教授 松田茂樹)を設置し、企画及び分析などの協力を得た。

## 6 調査実施委託機関

株式会社 日本リサーチセンター

## 7 回収結果

(1) 有効回収数 (率) 1,639 人 (54.6%)

(2) 回収不能数 (率) 1,361 人 (45.4%)

—不能内訳—

転居	102	長期不在	98
一時不在	451	住所不明	51
拒否	586	その他	73

(病気など)

## 8 本報告書を読む際の留意点

(1) 結果数値 (%) は表章単位未満を四捨五入しているため、内訳の計が合計に一致しないことがある。

(2) 本文、図表、集計表に用いた符号等の意味は次の通りである。

n : 質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。

SA : 単一選択の設問

MA : 複数選択の設問

3MA : 3つまで選択の設問

0.0 : 表章単位に満たないが、回答者がいるもの

— : 回答者がいないもの

(3) 「Ⅱ 調査結果の概要」では、分類別の回答者数が50人より少ない場合は傾向をみるにとどめ、分類別の分析の対象からは外している。また、図表では、属性での無回答や「その他」、「わからない」などにおける割合は省略している。

(4) 標本誤差は回答者数 (n) と得られた結果の比率によって異なるが、層化二段無作為抽出法による場合の誤差 (95%は信頼できる誤差の範囲) は下表のとおりである。

各回答の 比率 N	10% (又は 90%)	20% (又は 80%)	30% (又は 70%)	40% (又は 60%)	50%
1,639	±1.5	±1.9	±2.2	±2.4	±2.4
1,000	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1
500	±2.6	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4
100	±5.9	±7.8	±9.0	±9.6	±9.8

(5) 本調査で用いた都市規模区分は次のとおりである。

大都市（東京都区部、政令指定都市）

中都市（人口10万人以上の市）

小都市（人口10万人未満の市）

郡部（町村）

## 9 調査対象者の基本属性

### (1) 性

	総数	男性	女性
総数（人）	1,639	723	916
構成比（%）	100.0	44.1	55.9

### (2) 年齢

	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳
総数（人）	1,639	134	224	282	292	393	314
構成比（%）	100.0	8.2	13.7	17.2	17.8	24.0	19.2

### (3) 未既婚

	総数	結婚している	結婚していないがパートナーと同居	結婚したが今は死別・離婚している	結婚したことはない	答えたくない
総数（人）	1,639	1,211	12	185	229	2
構成比（%）	100.0	73.9	0.7	11.3	14.0	0.1

### (4) 子どもの有無

	総数	子どもがいる（計）	子どもの数					子どもはいない	無回答
			1人	2人	3人	4人	5人以上		
総数（人）	1,639	1,289	240	699	297	45	8	344	6
構成比（%）	100.0	78.6	14.6	42.6	18.1	2.7	0.5	21.0	0.4

### (5) 世帯構成

	総数	単身世帯	一世代世帯（夫婦のみ）	二世帯世帯（親と子）	三世帯世帯（祖父母と親と子）	その他	わからない
総数（人）	1,639	146	406	823	229	33	2
構成比（%）	100.0	8.9	24.8	50.2	14.0	2.0	0.1

### (6) 都市規模

	総数	大都市	中都市	小都市	郡部（町村）
総数（人）	1,639	388	687	402	162
構成比（%）	100.0	23.7	41.9	24.5	9.9

## II 調査結果の概要

### 1 結婚・家族形成についての意識

#### (1) 大切と思う人間関係やつながり

- 大切だと思う人間関係やつながりとしては（図表1）、「家族」が96.9%と突出して多い。以下、「親戚」（55.1%）、「地域の人」（49.4%）が続く。
- 男性は、20代から40代では「仕事の仲間・上司・部下」が5割台だが、50代では4割台、60代・70代では2～3割台と低くなっている。60代・70代では逆に「地域の人」が5割台と高くなっている。
- 女性も男性と同様に、20代から40代では「仕事の仲間・上司・部下」が4割台半ばから5割強、50代では約4割、60代・70代では1～2割となる。「地域の人」は30代から70代までいずれも4割台後半から5割台で、男性より早い年代から高くなっている。

図表1 大切と思う人間関係やつながり<MA>（性・年代別）

		家族	親戚	地域の人	仕事・上司・部下	趣味の友人	学校・出身校	その他	特にない	わからない
全体	(n=1,639)	96.9	55.1	49.4	37.0	33.1	31.9	0.5	0.3	0.2
男性小計	(n=723)	96.0	52.8	46.1	42.0	32.0	29.3	0.1	0.3	0.3
20代	(n=64)	95.3	46.9	34.4	54.7	48.4	64.1	-	-	-
30代	(n=94)	100.0	41.5	30.9	54.3	25.5	35.1	-	-	-
40代	(n=141)	99.3	53.2	43.3	56.7	34.0	31.9	-	-	-
50代	(n=123)	97.6	59.3	45.5	43.9	32.5	25.2	-	-	-
60代	(n=161)	95.7	54.0	55.9	34.8	29.8	21.7	0.6	1.2	0.6
70代	(n=140)	89.3	55.7	53.6	20.0	28.6	19.3	-	-	0.7
女性小計	(n=916)	97.6	56.9	52.0	33.0	34.1	34.0	0.8	0.3	0.1
20代	(n=70)	100.0	44.3	28.6	51.4	31.4	75.7	-	-	-
30代	(n=130)	100.0	57.7	48.5	46.9	37.7	46.2	0.8	-	-
40代	(n=141)	99.3	61.7	53.2	51.1	32.6	53.2	1.4	-	-
50代	(n=169)	98.8	55.6	50.3	39.6	36.7	30.2	1.8	-	0.6
60代	(n=232)	97.4	57.8	57.8	20.7	31.0	18.1	0.4	0.9	-
70代	(n=174)	92.5	57.5	56.9	10.3	35.1	17.2	-	0.6	-

- 性・都市規模別にみると（図表2）、「家族」がいずれの層でも9割台と多い。
- 大都市在住の男性では、「地域の人」が32.0%とすべての層のなかで最も少ない。
- 中都市在住の男性では、「仕事の仲間・上司・部下」が46.4%と他の層よりもやや多い。
- 男女とも郡部（町村）在住者では、「地域の人」（男性56.9%、女性56.7%）とのつながりを大切と思う人が「親戚」（同54.2%、52.2%）よりも多い傾向。  
女性では「趣味の友人」と「学校・出身校の友人」がそれぞれ40.0%と、他の層よりもやや多い。

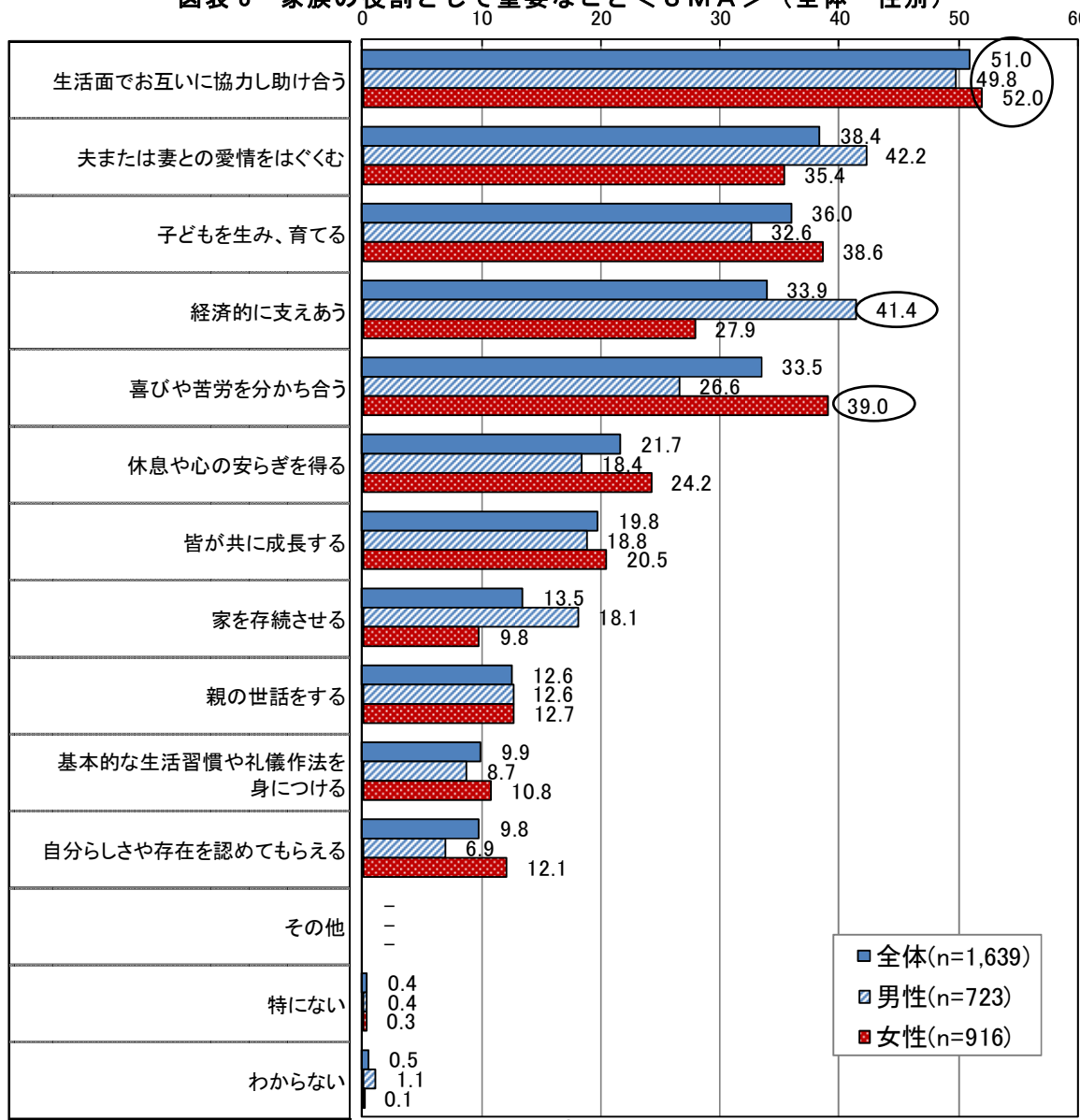
図表2 大切と思う人間関係やつながり＜MA＞（性・都市規模別）

		家族	親戚	地域の人	上 仕 司 事 の 仲 下 間 ・	趣 味 の 友 人	の 学 校 友 人 ・ 出 身 校	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	
全 体	(n=1,639)	96.9	55.1	49.4	37.0	33.1	31.9	0.5	0.3	0.2	
男 性	大都市	(n=169)	95.9	48.5	32.0	37.9	29.0	24.9	-	0.6	0.6
	中都市	(n=302)	97.0	55.0	50.0	46.4	38.1	36.1	0.3	0.3	-
	小都市	(n=180)	95.0	52.8	48.3	40.6	30.6	22.8	-	-	0.6
	郡部(町村)	(n=72)	94.4	54.2	56.9	37.5	16.7	27.8	-	-	-
女 性	大都市	(n=219)	97.3	48.9	39.7	28.8	33.8	32.9	1.4	0.5	-
	中都市	(n=385)	97.4	61.6	54.5	33.5	34.5	33.0	1.0	-	0.3
	小都市	(n=222)	98.6	58.6	57.7	36.5	31.1	34.2	-	0.9	-
	郡部(町村)	(n=90)	96.7	52.2	56.7	32.2	40.0	40.0	-	-	-

(2) 家族の役割として重要なこと

- 家族の役割として重要だと思うものとしては(図表3)、「生活面でお互いに協力し助け合う」が51.0%で最も多く、以下「夫または妻との愛情をはぐくむ」(38.4%)、「子どもを生み、育てる」(36.0%)、「経済的に支えあう」(33.9%)、「喜びや苦勞を分かち合う」(33.5%)の順となっている。
- 性別にみると、男女とも「生活面でお互いに協力し助け合う」(男性49.8%、女性52.0%)が5割前後で最も多い。
- 男性では、「経済的に支えあう」(同41.4%、27.9%)は、女性より10ポイント以上高く、「夫または妻との愛情をはぐくむ」(同42.2%、35.4%)、「家を存続させる」(同18.1%、9.8%)も、男性の方が高い。
- 一方、女性では、「喜びや苦勞を分かち合う」(同26.6%、39.0%)が男性より10ポイント以上高く、また「子どもを生み、育てる」(同32.6%、38.6%)、「休息や心の安らぎを得る」(同18.4%、24.2%)、「自分らしさや存在を認めてもらえる」(同6.9%、12.1%)が男性より多い。

図表3 家族の役割として重要なこと<3MA> (全体・性別) (%)

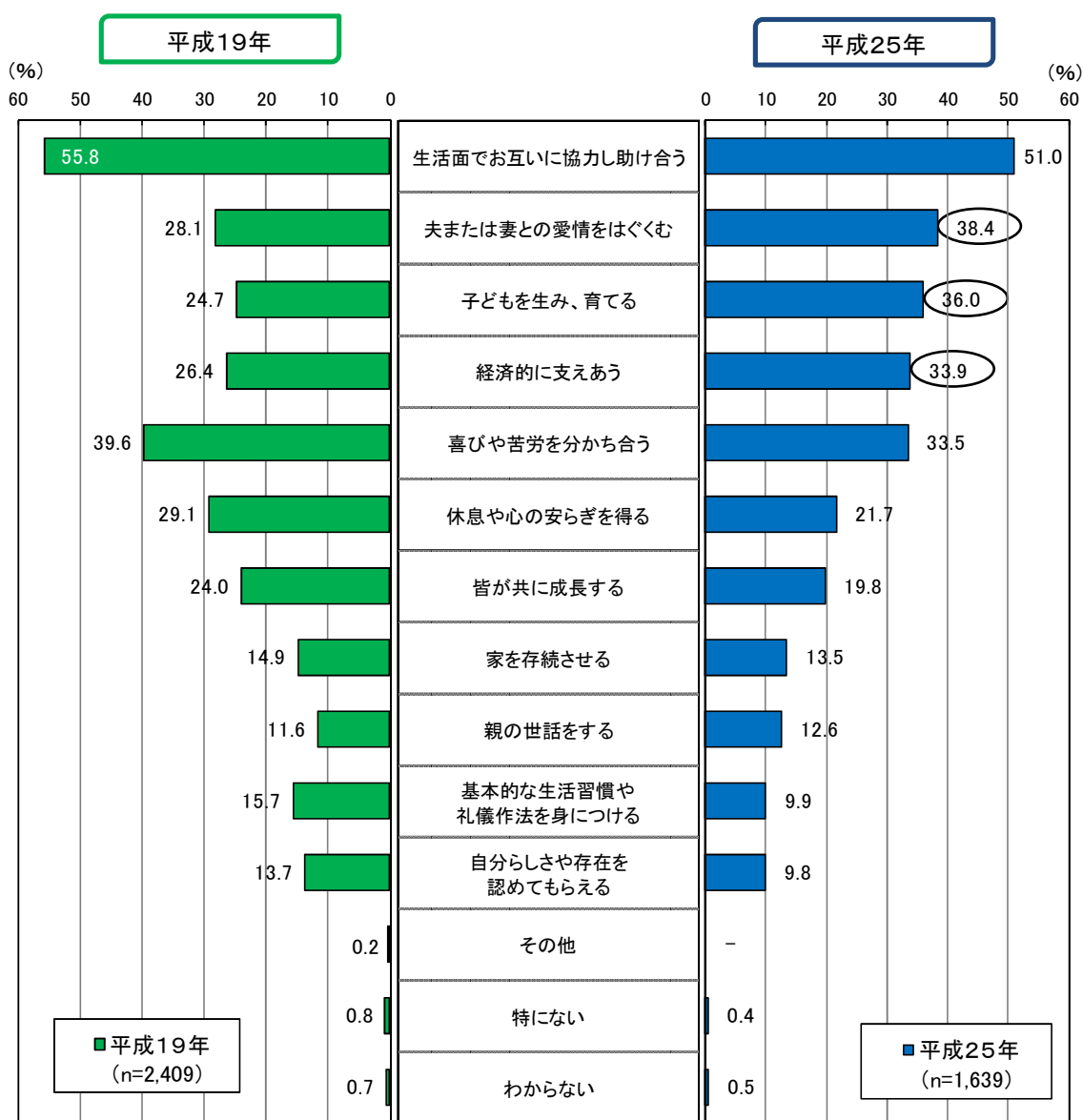




<参考：平成19年調査>

- 平成19年1月に実施した「少子化対策と家族・地域のきずなに関する意識調査」の結果をみると（図表4）、「生活面でお互いに協力し助け合う」は、当時は55.8%で最も多く、今回調査も51.0%と最も多い。
- また、「夫または妻との愛情をはぐくむ」（19年28.1%、25年38.4%）、「子どもを生み、育てる」（同24.7%、36.0%）、「経済的に支えあう」（同26.4%、33.9%）は、いずれも前回調査では2割台であったのが、今回調査ではそれぞれ10ポイント前後高くなり、上位にあげられている。

図表4 家族の役割として重要なこと<3MA>



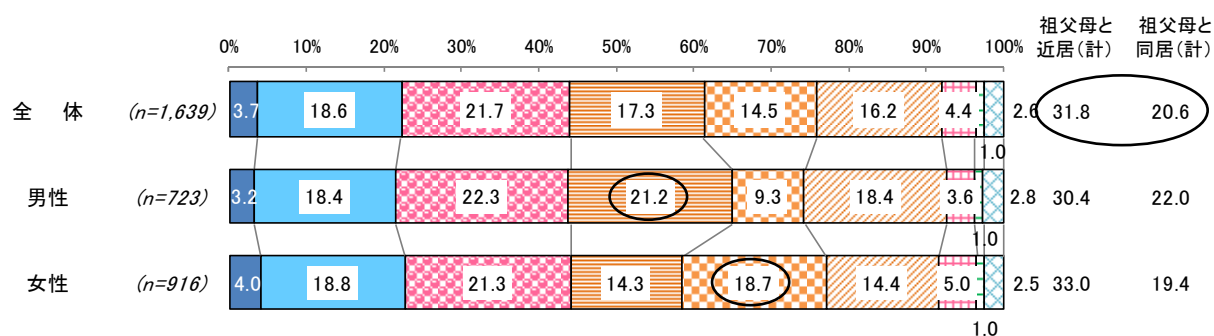
<参考>

平成19年1月実施調査  
 調査名：「少子化対策と家族・地域のきずなに関する意識調査」  
 対象：全国18歳以上の男女4,000人  
 （注）今回調査の対象：全国20歳～79歳の男女3,000人

### (3) 理想の家族の住まい方

- 理想の家族の住まい方を聞いたところ（図表 5）、「親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む」という回答者が 21.7% で最も多く、次いで、「夫婦のみの二人暮らし」が 18.6%。
- 『祖父母と近居』（31.8%）と『祖父母と同居』（20.6%）を理想と考えている人をあわせると 5 割強である。『祖父母と近居』という回答の方が『祖父母と同居』よりも 11 ポイント多い。
- 性別にみると、『祖父母と近居』については、「父方の祖父母」（男性 21.2%、女性 14.3%）は男性の方が多く、「母方の祖父母」（同 9.3%、18.7%）は女性に多くあげられている。男女とも自身の親との近居を理想とする傾向がみられる。

図表 5 理想の家族の住まい方＜SA＞（全体・性別）

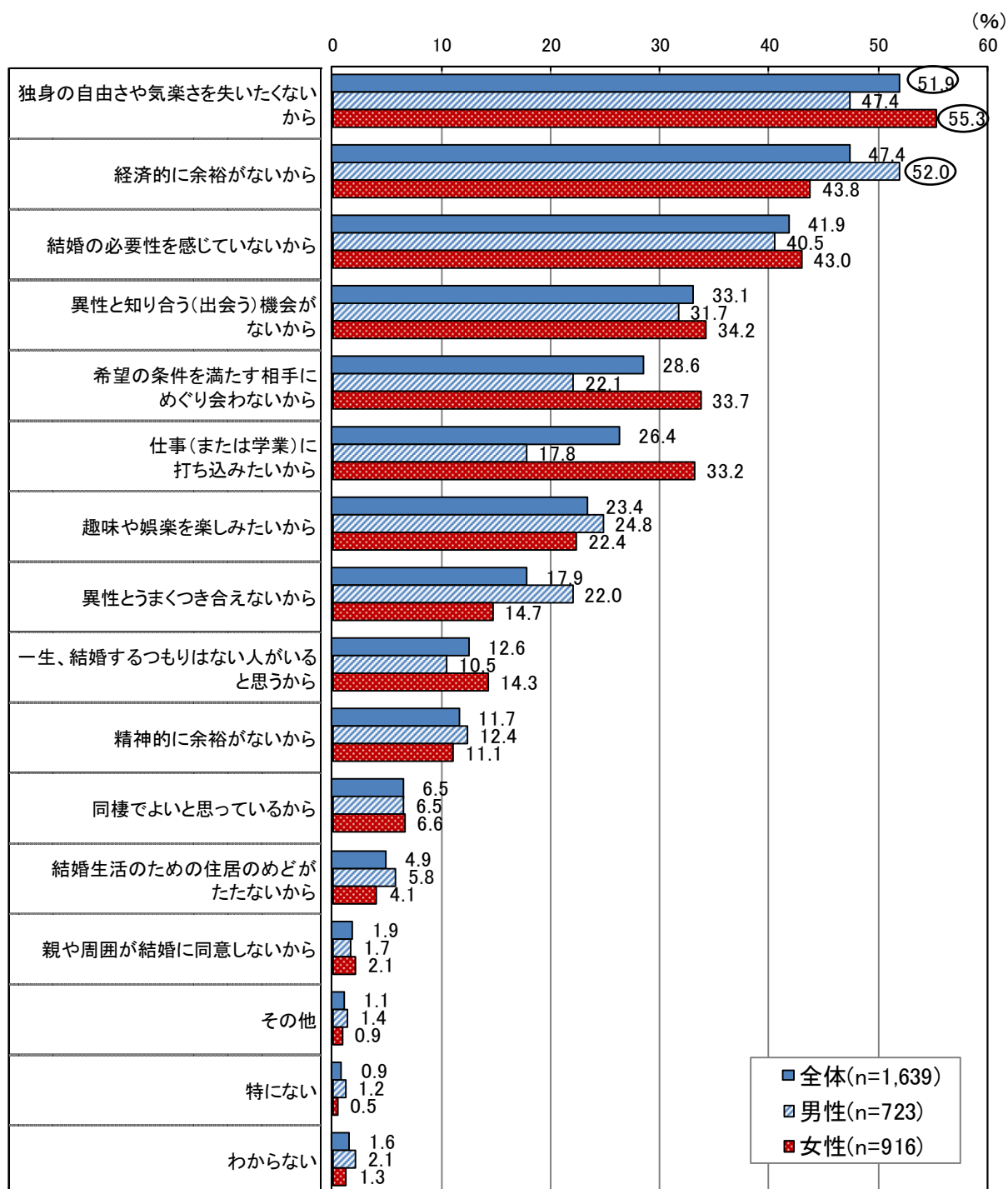


- ひと暮らし
- 夫婦のみの二人暮らし
- 親と子どもの世帯で、祖父母とは離れて住む
- 親と子どもの世帯で、父方の祖父母(夫の親)と近居
- 親と子どもの世帯で、母方の祖父母(妻の親)と近居
- 親・子ども・父方の祖父母(夫の親)の三世帯世帯(同居)
- 親・子ども・母方の祖父母(妻の親)の三世帯世帯(同居)
- その他
- わからない

(4) 若い世代で未婚・晩婚が増えている理由

- 日本の若い世代に「未婚」「晩婚」が増えている理由の上位3項目は(図表6)、1位「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(51.9%)、2位「経済的に余裕がないから」(47.4%)、3位「結婚の必要性を感じていないから」(41.9%)の順であり、それ以外の項目は3割台以下となっている。
- 性別にみると、男性では「経済的に余裕がないから」(52.0%)が最も多く、女性では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(55.3%)が1位となっている。

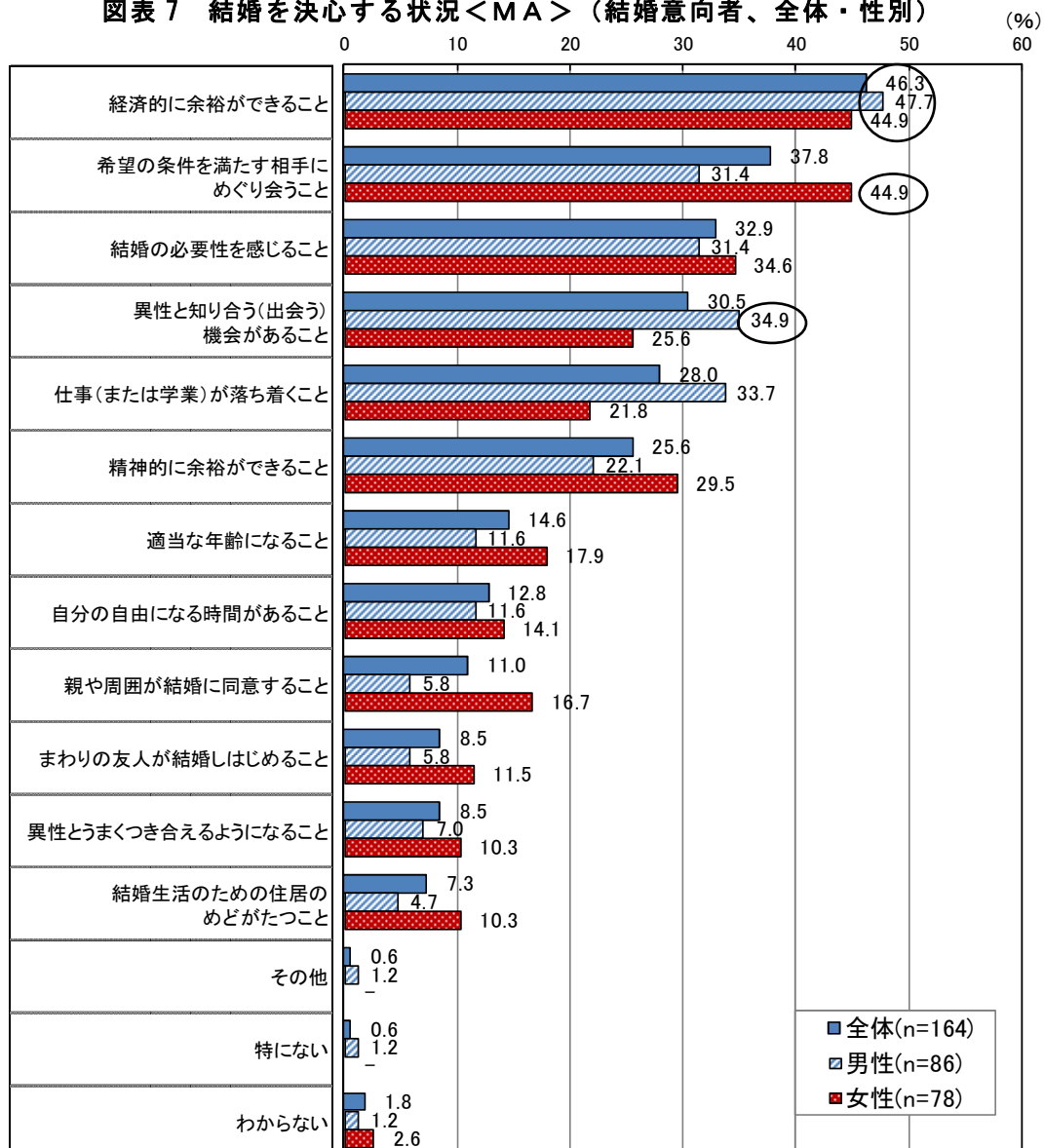
図表6 若い世代で未婚・晩婚が増えている理由<MA>(全体・性別)



(5) 結婚を決心する状況

- 結婚意向のある未婚者（164人）が、結婚を決心する状況としては（図表7）、「経済的に余裕ができること」（46.3%）が最も高く、2番目に「希望の条件を満たす相手にめぐり会うこと」（37.8%）があげられている。
- 性別にみると、男性では「経済的に余裕ができること」（47.7%）が最も多く、次いで「異性と知り合う（出会う）機会があること」（34.9%）、「仕事（または学業）が落ち着くこと」（33.7%）の順である。
- 一方、女性では「経済的に余裕ができること」（44.9%）と並んで「希望の条件を満たす相手にめぐり会うこと」（44.9%）があげられ、次いで「結婚の必要性を感じること」（34.6%）となっている。
- なかでも、男性の2位は「異性と知り合う（出会う）機会があること」であり、女性では同率1位が「希望の条件を満たす相手との出会い」が必要となっており、男女で結婚を決心する状況に差がみられる。

図表7 結婚を決心する状況<MA>（結婚意向者、全体・性別）

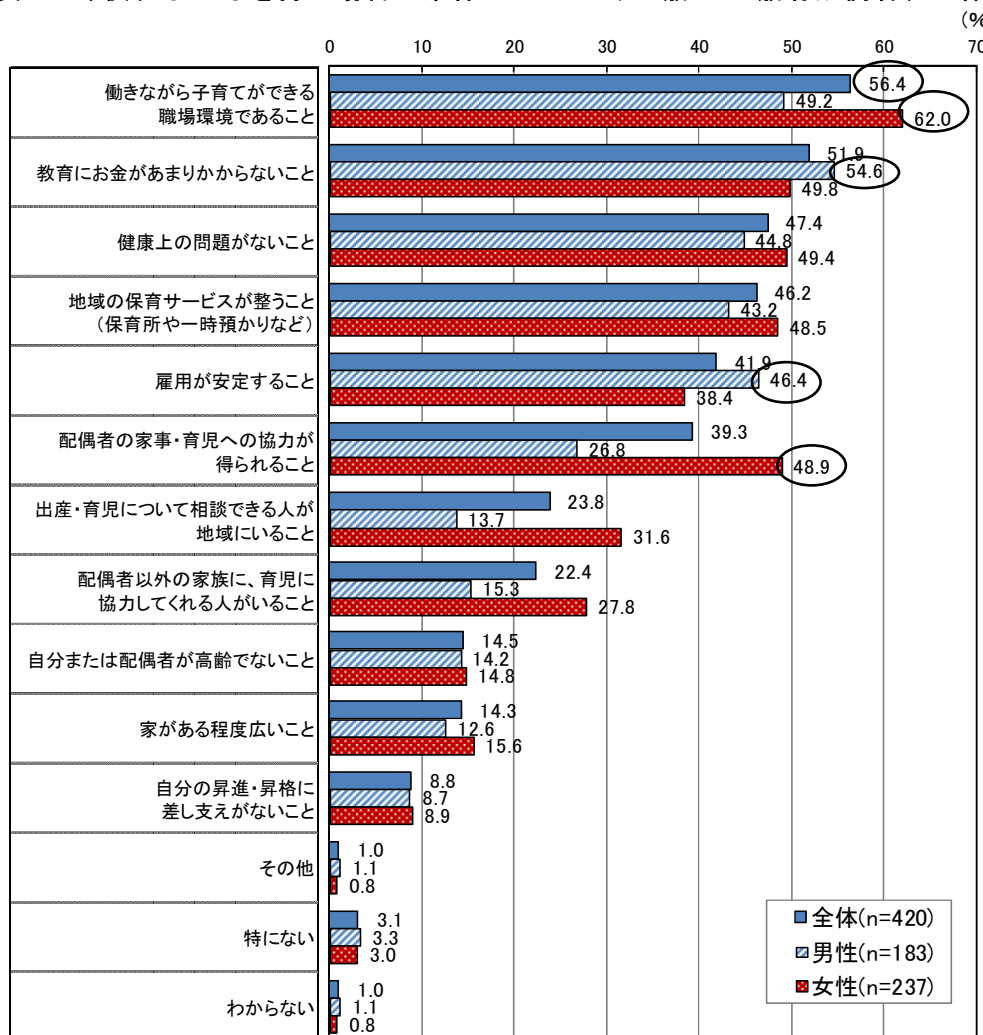


## 2 家庭における出産や子育てについての意識

### (1) 今後、子どもを持つ場合の条件

- 現在、結婚している 20 歳～49 歳の回答者（420 人）が、今後、子どもを持つ場合の条件としては（図表 8）、「働きながら子育てができる職場環境であること」が 56.4% で最も多く、以下「教育にお金がかからないこと」（51.9%）、「健康上の問題がないこと」（47.4%）、「地域の保育サービスが整うこと（保育所や一時預かりなど）」（46.2%）、「雇用が安定すること」（41.9%）の順となっている。
- 性別にみると、男性では「教育にお金がかからないこと」（男性 54.6%、女性 49.8%）が最も多く、女性では「働きながら子育てができる職場環境であること」（同 49.2%、62.0%）が際立って多くなっており、男女で差がみられる。
- 男性が女性より多いのは「雇用が安定すること」（男性 46.4%、女性 38.4%）であるが、女性が男性を上回っているのは、「地域の保育サービスが整うこと」（同 43.2%、48.5%）、「配偶者の家事・育児への協力が得られること」（同 26.8%、48.9%）、「出産・育児について相談できる人が地域にいること」（同 13.7%、31.6%）、「配偶者以外の家族に、育児に協力してくれる人がいること」（同 15.3%、27.8%）であり、多くの項目にわたっている。

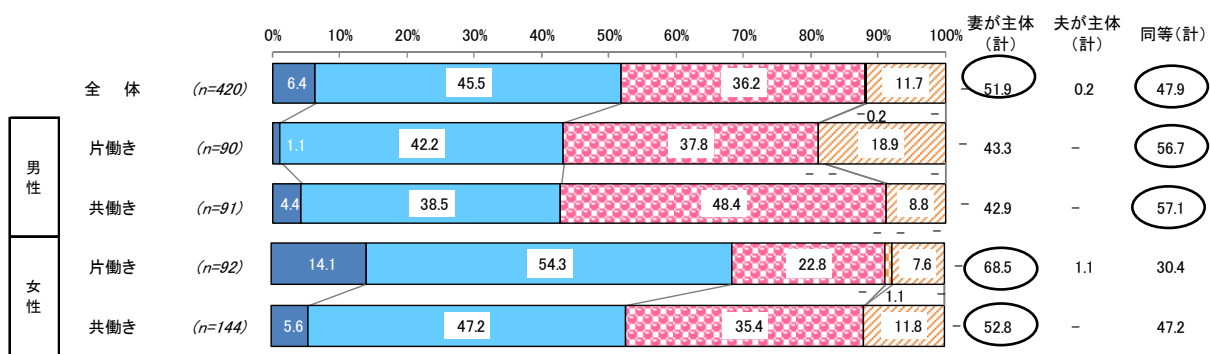
図表 8 今後、子どもを持つ場合の条件＜MA＞（20 歳～49 歳有配偶者、全体・性別）



(2) 家庭での育児や家事の役割

- 20歳～49歳の有配偶者（420人）について、家庭での育児や家事を夫と妻のどちらが行うべきかをみると（図表9）、『妻が主体』（「妻の役割である」＋「基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」）は51.9%、『同等』（「妻も夫も同様に行う」＋「どちらか、できる方がすればよい」）が47.9%であり、『妻が主体』と『同等』という回答がほぼ同程度である。
- 夫婦の就労状況別にみると、男性は片働き世帯か共働き世帯に関わらず、『妻が主体』（片働き43.3%、共働き42.9%）が4割台前半、『同等』（同56.7%、57.1%）が5割台後半で、『同等』という意見がやや多い。
- 一方、女性では、『妻が主体』という意見が男性より多い。片働き世帯の女性は『妻が主体』が68.5%と、共働き世帯の女性（52.8%）よりも多く、片働き世帯の女性では「妻の役割である」（14.1%）という回答が1割台となっている。
- 『同等』という回答は、共働き世帯の女性（47.2%）の方が、片働き世帯の女性（30.4%）よりも多くなっている。

図表9 家庭での育児や家事の役割＜SA＞  
（20歳～49歳有配偶者、性・夫婦就労状況別）

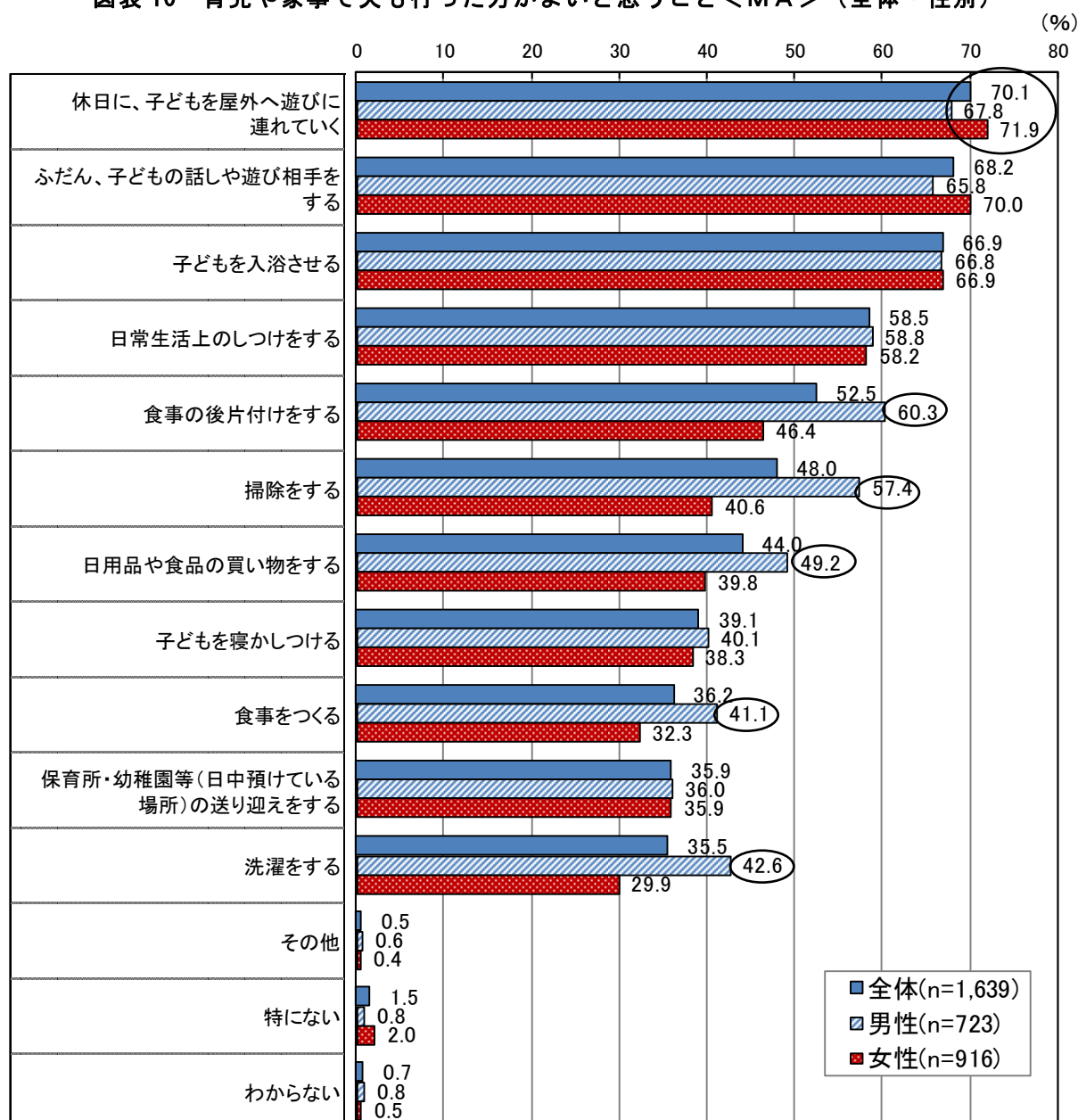


妻の役割である →『妻が主体』  
 基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度 →『妻が主体』  
 妻も夫も同様に行う →『同等』  
 基本的に夫の役割であり、妻はそれを手伝う程度 →『夫が主体』 →『同等』  
 夫の役割である →『夫が主体』 →『同等』  
 どちらか、できる方がすればよい →『同等』  
 その他  
 わからない

### (3) 育児や家事で夫も行った方がよいと思うこと

- 子どもが小学校に入学するまでの間、育児や家事の中で、夫も行った方がよいと思うこととしては（図表 10）、「休日に、子どもを屋外へ遊びに連れていく」（70.1%）、「ふだん、子どもの話しや遊び相手をする」（68.2%）、「子どもを入浴させる」（66.9%）が7割前後で、上位にあげられている。
- 性別にみると、夫も行った方がよいと思うことの項目順位に大きな男女差はみられないが、男性の回答率が女性を大きく上回っているのは「食事の後片付けをする」（男性 60.3%、女性 46.4%）、「掃除をする」（同 57.4%、40.6%）、「日用品や食品の買い物をする」（同 49.2%、39.8%）、「食事をつくる」（同 41.1%、32.3%）、「洗濯をする」（同 42.6%、29.9%）である。

図表 10 育児や家事で夫も行った方がよいと思うこと<MA>（全体・性別）





- 性・年代別にみると（図表 11）、いずれの項目についても、男女とも年齢が若いほど多くあげられる傾向がある。

図表 11 育児や家事で夫も行った方がよいと思うこと<MA>（性・年代別）

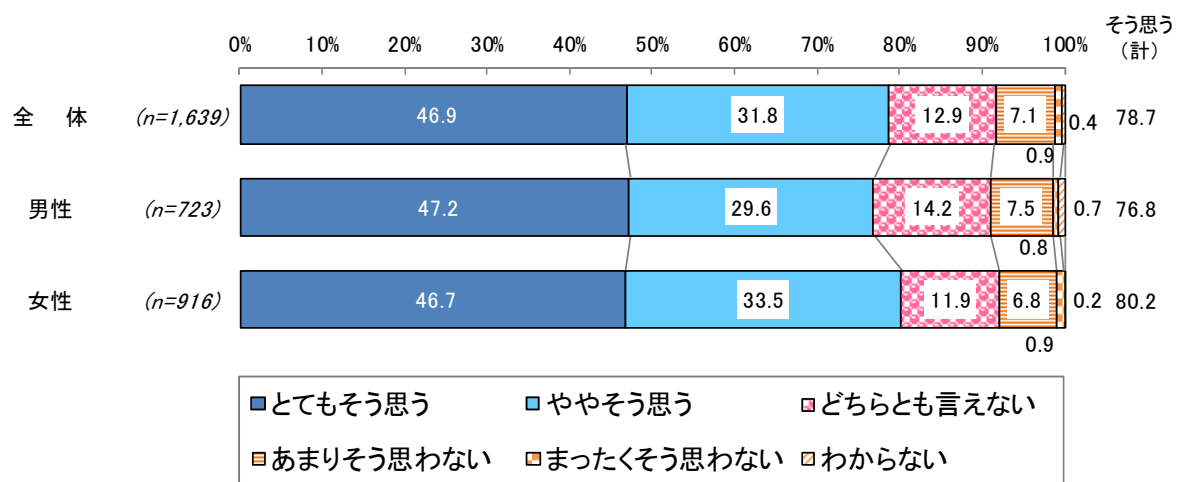
		休日に、子どもを屋外へ遊びに連れていく	ふだん、子どもの話や遊び相手をする	子どもを入浴させる	日常生活上のしつけをする	食事の後片付けをする	掃除をする	日用品や食品の買い物を	子どもを寝かしつける	食事をつくる	中預けている場所（保育園・幼稚園等）の送り迎えをする	洗濯をする	その他	特にな	わからない	
全体	(n=1,639)	70.1	68.2	66.9	58.5	52.5	48.0	44.0	39.1	36.2	35.9	35.5	0.5	1.5	0.7	
男性	男性小計	(n=723)	67.8	65.8	66.8	58.8	60.3	57.4	49.2	40.1	41.1	36.0	42.6	0.6	0.8	0.8
	20代	(n=64)	79.7	73.4	81.3	76.6	76.6	68.8	70.3	59.4	51.6	53.1	59.4	1.6	-	-
	30代	(n=94)	76.6	72.3	79.8	68.1	71.3	66.0	55.3	53.2	52.1	48.9	50.0	1.1	-	-
	40代	(n=141)	75.2	69.5	73.0	64.5	68.8	61.7	58.2	51.8	44.0	36.2	53.2	-	1.4	-
	50代	(n=123)	72.4	70.7	75.6	61.8	62.6	58.5	52.8	45.5	48.0	38.2	45.5	-	-	-
	60代	(n=161)	62.1	62.1	62.7	48.4	54.0	60.9	41.0	28.0	35.4	29.8	33.5	-	1.2	0.6
	70代	(n=140)	51.4	54.3	42.1	47.9	42.1	37.1	32.9	20.0	26.4	24.3	27.1	1.4	1.4	3.6
女性	女性小計	(n=916)	71.9	70.0	66.9	58.2	46.4	40.6	39.8	38.3	32.3	35.9	29.9	0.4	2.0	0.5
	20代	(n=70)	80.0	85.7	78.6	62.9	62.9	48.6	50.0	61.4	41.4	45.7	42.9	-	-	-
	30代	(n=130)	85.4	71.5	76.9	57.7	51.5	41.5	43.1	52.3	36.2	32.3	34.6	0.8	-	0.8
	40代	(n=141)	77.3	78.0	70.9	61.0	56.0	57.4	51.1	44.0	38.3	40.4	41.1	-	0.7	-
	50代	(n=169)	75.1	72.8	73.4	71.6	53.3	41.4	44.4	44.4	40.2	41.4	33.1	-	1.2	0.6
	60代	(n=232)	64.2	64.7	63.4	50.0	37.5	39.2	29.3	27.6	25.0	35.3	25.4	0.4	1.7	-
	70代	(n=174)	61.5	60.3	50.0	52.3	33.3	24.1	33.9	22.4	23.0	26.4	14.9	1.1	6.3	1.7



#### (4) 祖父母の育児や家事の手助け

- 子どもが小学校に入学するまでの間、子どもからみた祖父母が、育児や家事の手助けをすることが望ましいかどうかについては（図表 12）、「とてもそう思う」という回答者が 46.9%で、「ややそう思う」（31.8%）という回答者をあわせると、『そう思う』が 78.7%。8 割近くが祖父母の手助けを望ましいとしている。
- 性別にみても、大きな男女差はなく、8 割前後が祖父母の手助けを望ましいと回答している。

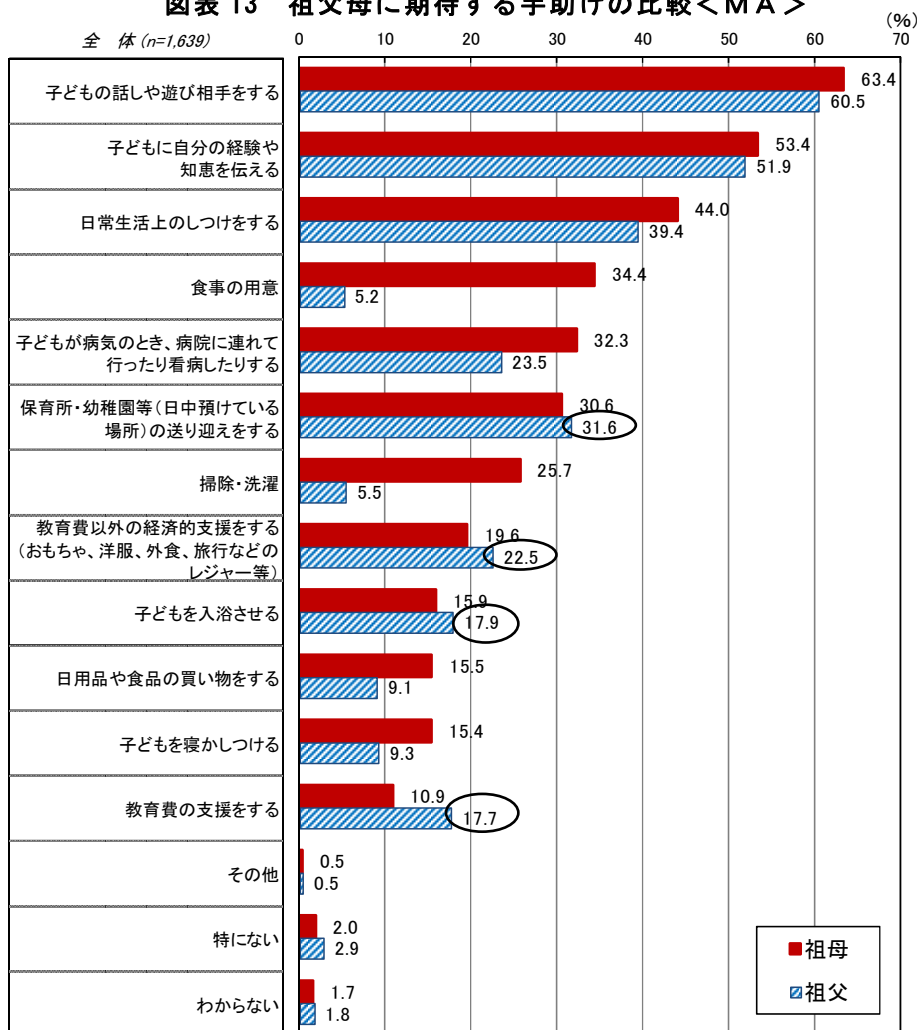
図表 12 祖父母の育児や家事の手助け＜S A＞（全体・性別）



(5) 祖父母に期待する手助けの比較

- 祖母と祖父に期待する手助けを比較すると(図表13)、祖父母ともに上位3項目は同じで、「子どもの話しや遊び相手をする」(祖母63.4%、祖父60.5%)、「子どもに自分の経験や知恵を伝える」(同53.4%、51.9%)、「日常生活上のしつけをする」(同44.0%、39.4%)の順。
- 4位以降は、祖母は「食事の用意」(34.4%)、「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」(32.3%)、「保育所・幼稚園等の送り迎えをする」(30.6%)が3割台で続く。
- 一方、祖父では「保育所・幼稚園等(日中預けている場所)の送り迎えをする」(31.6%)が多く、以下は、「子どもが病気の時、病院に連れて行ったり看病したりする」(23.5%)、「教育費以外の経済的支援をする(おもちゃ、洋服、外食、旅行などのレジャー等)」(22.5%)が2割台である。
- 多くの項目で、祖父よりも祖母への期待が大きくなっているが、「保育所・幼稚園等の送り迎えをする」、「教育費以外の経済的支援をする」、「子どもを入浴させる」、「教育費の支援をする」などについては、祖父への期待も同程度もしくは祖母を上回っている。

図表13 祖父母に期待する手助けの比較<MA>

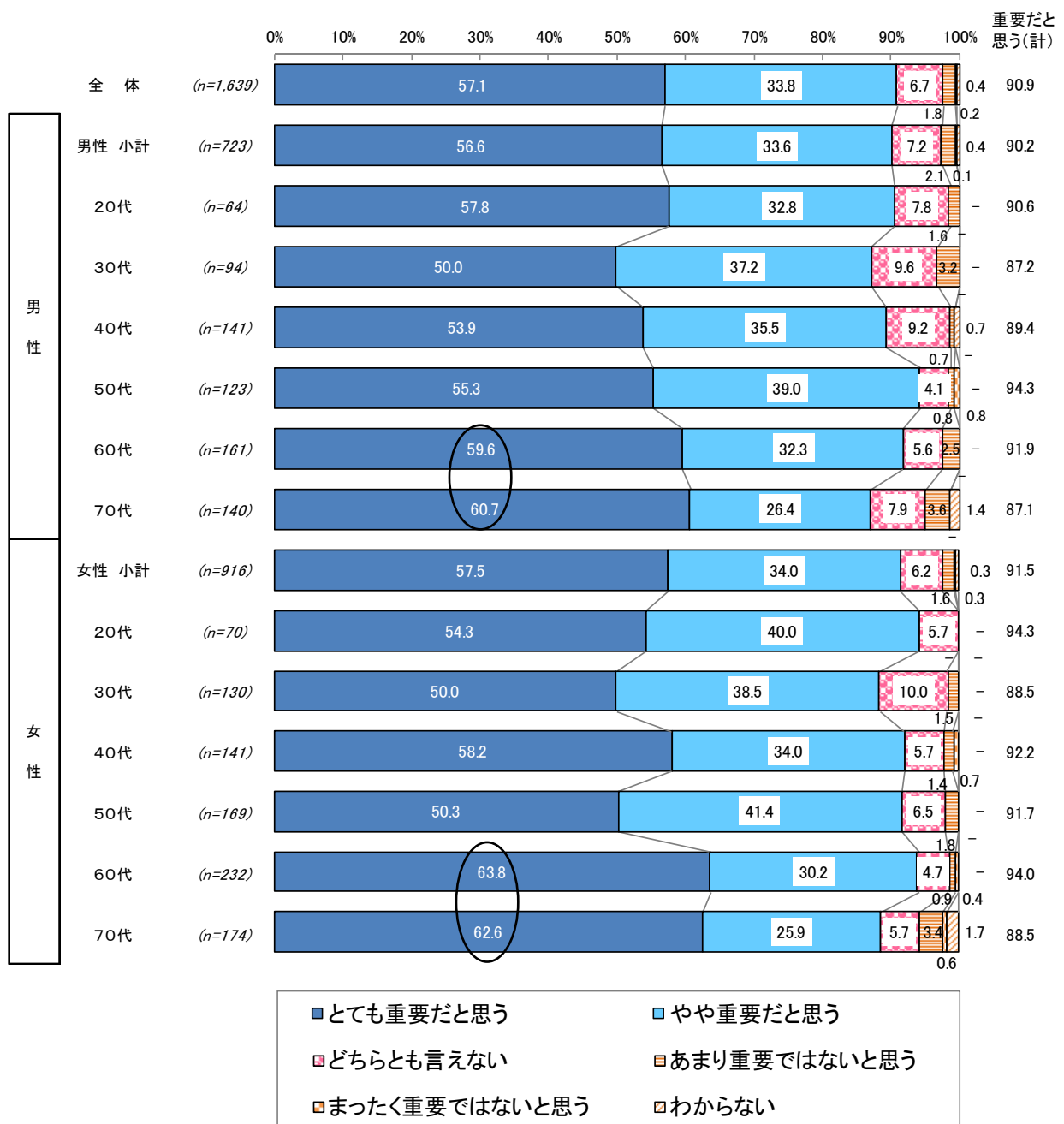


### 3 地域での子育て支援環境づくりについての意識

#### (1) 子育てする人にとっての地域の支えの重要性

- 子育てをする人にとっての地域の支えの重要性を聞いたところ（図表 14）、「とても重要だと思う」という回答者は 57.1% で最も多く、「やや重要だと思う」（33.8%）という回答をあわせると、9 割が地域の支えが『重要だと思う』と回答している。
- 男女とも 60 代以上（男性 60 代 59.6%、70 代 60.7%、女性 60 代 63.8%、70 代 62.6%）で「とても重要だと思う」と積極的に評価する回答者が他の年代に比べて多い傾向。

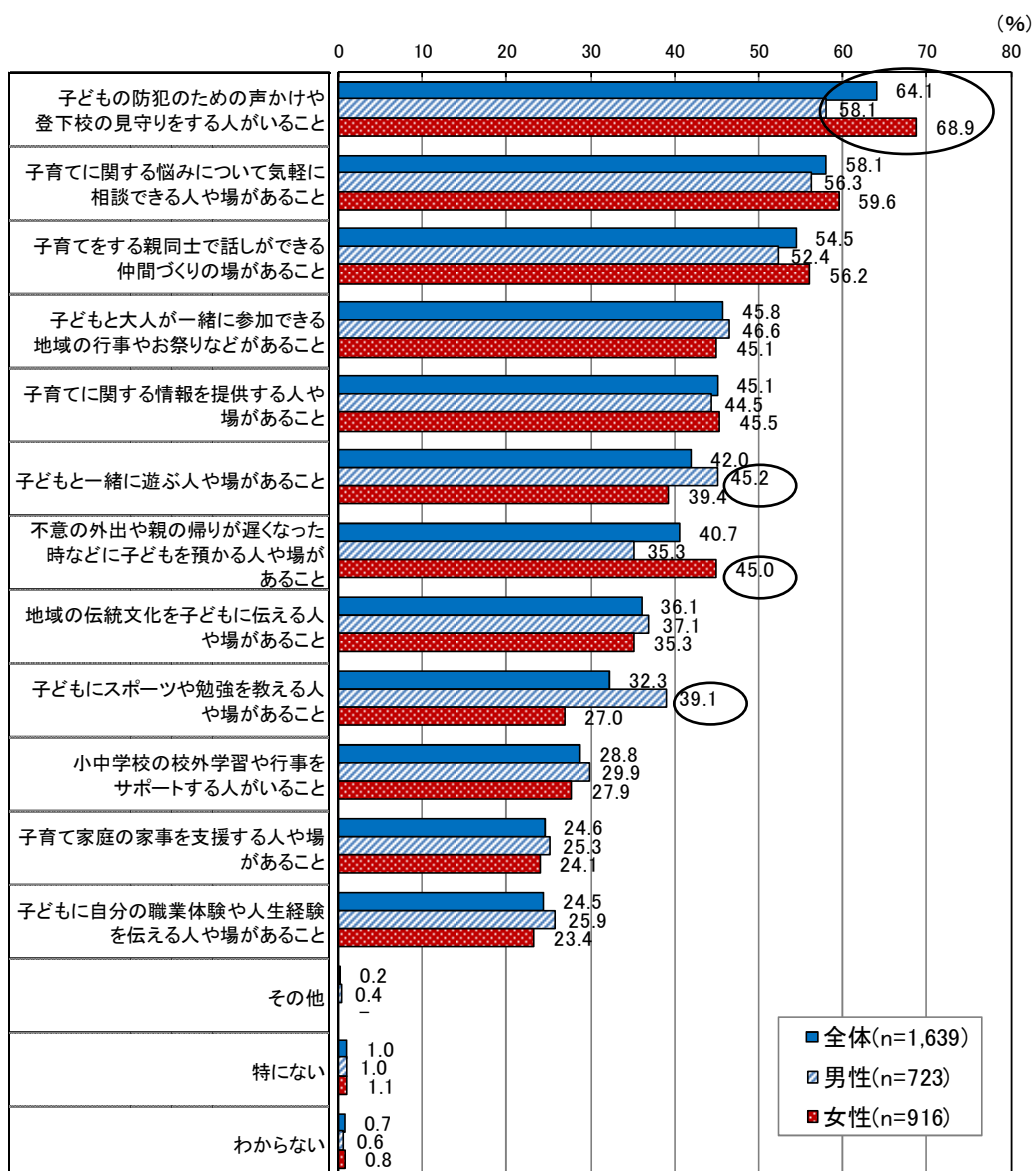
図表 14 子育てする人にとっての地域の支えの重要性<SA>（性・年代別）



(2) 地域で子育てを支えるために重要なこと

- 地域で子育てを支えるために重要なこととしては（図表 15）、「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」が 64.1%で最も多くあげられ、次いで「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」（58.1%）、「子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること」（54.5%）の順となっている。
- 性別にみると、重要視する項目順位に大きな男女差はみられないが、女性が男性より多くあげているのは、「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」（男性 58.1%、女性 68.9%）と「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」（同 35.3%、45.0%）。
- 男性が女性より多くあげているのは、「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」（男性 45.2%、女性 39.4%）、「子どもにスポーツや勉強を教える人や場があること」（同 39.1%、27.0%）。

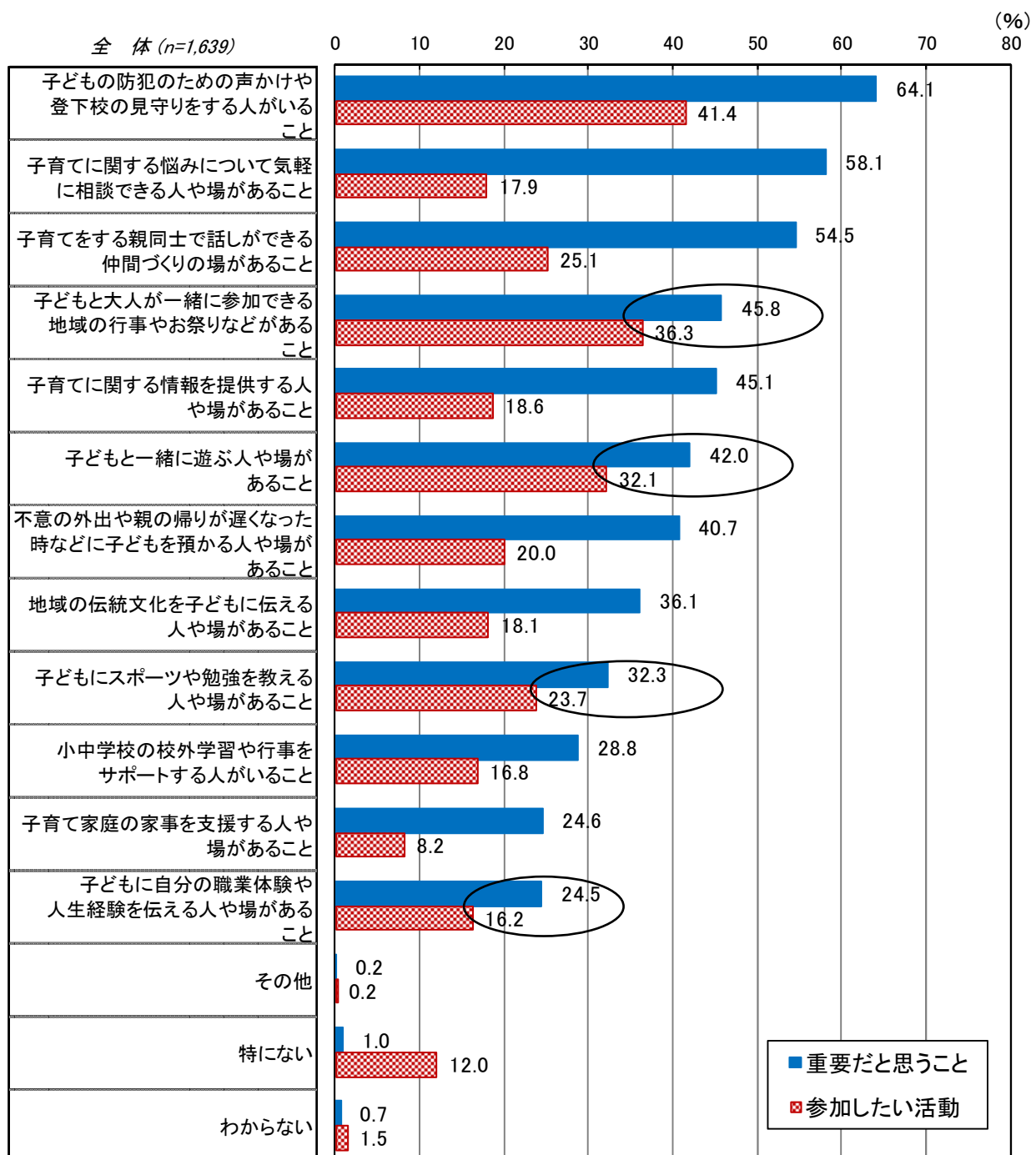
図表 15 地域で子育てを支えるために重要なこと<MA>（全体・性別）



(3) 「地域で子育てを支えるために重要なこと」と「参加したい活動」

● “地域で子育てを支えるために重要なこと”の回答と、“参加したいと思う活動”の回答を比較すると(図表16)、重要と思うという回答と、参加したいという回答の差が小さいものは、「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること」(重要45.8%、参加36.3%)、「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」(同42.0%、32.1%)、「子どもにスポーツや勉強を教える人や場があること」(同32.3%、23.7%)、「子どもに自分の職業体験や人生経験を伝える人や場があること」(同24.5%、16.2%)であり、差は10ポイント以内である。

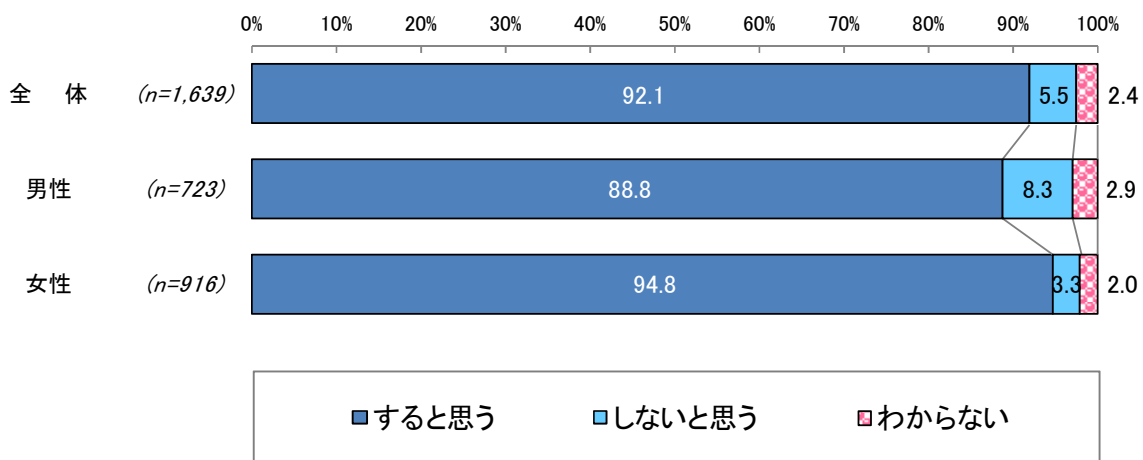
図表16 「地域で子育てを支えるために重要なこと」と「参加したい活動」<MA>



(4) 公共の場での子ども連れの親への手助けや話しかけ

- 街中や電車・バスなどの公共の場で、ベビーカーや子ども連れの親が困っている場面を見かけた場合に、手助けをしたり、話しかけたり「すると思う」という回答者は92.1%で、多数を占めている(図表17)。
- 性別にみると、手助けや話しかけを「すると思う」(男性88.8%、女性94.8%)という回答者は、男女とも多数を占めているが、特に女性に多くなっている。

図表17 公共の場での子ども連れの親への手助けや話しかけ<SA>(全体・性別)



(5) 子ども連れの親に対して実際に行った行動

- 街中や電車・バスなどの公共の場で、ベビーカーや子ども連れの親を見かけたときに実際に行ったことがあるものとしては(図表18)、「ドアをあけて、押さえておく」が68.5%で最も多くあげられ、以下「席をゆずる」(65.8%)、「エレベーターで、先をゆずる」(61.0%)、「子どもが落としたおもちゃや靴などをひろう」(53.6%)の順となっている。
- 「席をゆずる」と「階段などで、荷物やベビーカーを代わり(一緒)に持つ」は、男性の40~50代で同世代の女性より、やや多くあげられている。

図表18 子ども連れの親に対して実際に行った行動<MA>(全体・性年代別)

		押さえておく	席をゆずる	エレベーターで、先をゆずる	子どもが落としたおもちゃや靴などをひろう	階段などで、荷物やベビーカーを代わり(一緒)に持つ	はげましの笑顔を向ける、話しかける	子どもをあやす	特にない	その他	わからない	
全体	(n=1,639)	68.5	65.8	61.0	53.6	34.0	29.5	26.1	5.7	0.2	0.1	
男性	男性小計	(n=723)	67.9	68.3	60.2	43.0	33.6	19.6	13.8	6.4	0.4	0.1
	20代	(n=64)	65.6	67.2	53.1	34.4	20.3	9.4	6.3	4.7	1.6	-
	30代	(n=94)	81.9	62.8	66.0	43.6	29.8	13.8	11.7	4.3	-	-
	40代	(n=141)	79.4	79.4	69.5	51.1	41.1	14.2	11.3	2.8	0.7	-
	50代	(n=123)	71.5	74.8	60.2	47.2	42.3	14.6	12.2	4.1	-	-
	60代	(n=161)	60.2	64.6	57.8	42.2	26.7	29.2	13.0	9.3	-	-
	70代	(n=140)	53.6	60.0	52.9	35.7	35.0	27.1	23.6	10.7	0.7	0.7
女性	女性小計	(n=916)	68.9	63.8	61.6	61.9	34.3	37.2	35.8	5.2	-	0.1
	20代	(n=70)	81.4	75.7	72.9	64.3	24.3	18.6	10.0	1.4	-	-
	30代	(n=130)	75.4	60.8	73.8	76.2	33.1	25.4	26.9	3.1	-	-
	40代	(n=141)	76.6	66.7	70.9	75.2	37.6	31.2	35.5	2.1	-	-
	50代	(n=169)	77.5	62.1	62.1	63.3	37.9	32.5	29.0	5.3	-	-
	60代	(n=232)	59.9	60.3	54.7	53.4	35.8	47.8	44.0	5.6	-	-
	70代	(n=174)	56.3	64.9	48.9	49.4	31.0	48.9	48.9	10.3	-	0.6